

# メールマガジン埼玉県議会



発行：埼玉県議会



No.249 2018.8.31

## 県議会広報テレビ「こんにちは県議会です」 8月26日(日曜日)放送「各会派代表者に聞く2」

県議会広報テレビ「こんにちは県議会です」(テレ玉)では、各定例会の様や各会派代表者のインタビューなど県議会に関するさまざまな情報を放送しています。

今号のメールマガジンでは、ご覧になれなかった方のために、8月26日(日曜日)に放送した「各会派代表者に聞く2」の内容をお伝えします。

次回は、あさって9月2日(日曜日)の午前10時から、「各会派代表者に聞く3」を放送予定です。

プレゼントコーナーもありますので、ぜひご覧ください。



[☆放送スケジュールなどは、県議会のホームページをご覧ください。》](#)

### INDEX



**県議会広報**  
こんにちは県議会です「各  
会派代表者に聞く2」  
・公明 西山淳次 団長  
・県民 鈴木正人 代表



**議事堂の花**  
生け花のご紹介



**県議会広報**

【こんにちは県議会です「各会派代表者に聞く2」】

## ◆埼玉県議会公明党議員団 西山淳次 団長◆

西第1区所沢市選出

平成11年 埼玉県議会議員に初当選(現在5期目)

平成23年 埼玉県議会公明党議員団の団長に就任

—はじめに、ごあいさつをお願いします。—

団長 県民の皆さま、こんにちは。埼玉県議会公明党議員団団長の西山淳次です。県民の皆さまには日ごろからわが党に対しまして、大きなご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。



公明党議員団は現在8名ですが、特に、現場に根差した問題提起と政策の提案、そして良識ある判断で県政に貢献していきたいと心掛けています。何とぞよろしく願いいたします。

—現場に根差した政治が大事とのことですが、具体的にはどのようなことでしょうか。—

団長 先の6月定例会で介護職員の不足が大きなテーマになりましたが、介護現場の人材不足を県議会ですぐに問題提起し、対策を訴えてきたのはわが党であると自負しています。数多くの介護現場に伺い、ヒアリングを重ねる中で、低賃金や社会的評価の低さなど、問題の深刻さをいち早くキャッチすることができたからです。ある介護職の方が言われた、「私たちが一生働けるような職場にしてほしい」という言葉を私は忘れられません。こうした声に応えることが公明党の使命だと思っています。

—現場を大切にすることが公明党の政治姿勢なんですね。—

団長 そう言っただけだと、とてもうれしいです。映画のせりふではありませんが、「事件は会議室ではなく、現場で起きている」んです。6月定例会一般質問でわが党の安藤議員が取り上げた県立ろう学園の事例もそうでした。ろう学園生徒の親御さんから、ろう学園の寄宿舎が老朽化していることを指摘された安藤議員は、すぐに県立ろう学園を現場視察し、寄宿舎の老朽化が予想以上にひどいことを確認しました。改善を促すべく、直ちに一般質問で取り上げ、教育長から前向きな答弁を引き出しました。公明党らしい質問だったなと思います。

—今後、重点的に取り組んでいきたいテーマはありますか。—

団長 まずは、ここ数年来の最重要課題である地域包括ケアシステムの構築です。先ほど申し上げた人材不足をはじめ、医療と介護の連携、ひいてはボランティアの育成など、難しい課題が山積しておりますが、わが党は課題解決に向けて現場を訪ね、懸命に取り組んでいます。ただ、そもそも地

域包括ケアシステムという言葉が分かりにくい。一回聞いただけでは「何のこと？」という感じだと思います。まだまだ県民の皆さまに内容が理解されていない。地域包括ケアシステムの中身を広く一般県民の方に知っていただいて、これからの超高齢社会に絶対に必要だということを理解していただく、そんな広報と周知が成否のカギを握ると感じています。今後は、ここにも力を入れていきたいと思っています。

—他には、どのようなことに力を入れていくお考えですか。—

団長 教員の負担軽減を何としても進めなくてはいけないと思っています。昔と違い、今の教員は非常に多忙です。朝7時に出勤して、夜7時、8時まで学校にいるのが常態化しているケースも少なくありません。これではいくらやる気があっても身体が持ちません。昨年、公明党が提案した事務補助員の採用なども実現しましたが、まだまだこれからです。現在ギリギリの状態です。奮闘している先生方の負担を具体的に軽くする施策、そして「埼玉県は先生方を応援していますよ」という明確なメッセージが必要です。その意味で、予算の執行が凍結されている教員のタイムカードについては、当然導入すべきなのは言うまでもありません。



—福祉、教育への取り組みを伺いましたが、他の分野はいかがでしょう。—

団長 中小企業の人手不足が大変深刻であると感じています。もっと業務を拡大したいが、人が足りない。人がいないので仕事が受けられないという声を多く聞きます。県としても何とか手を打てないか。これからさらに現場に入って、知恵を絞ってまいります。

—最後に、県議会で公明党が目指すものを教えてください。—

団長 定数93名に対して公明党は8名ですから、数からいえば大きな勢力ではありません。しかし、公明党が心掛けているのは、常に良識の党であろう、ということです。政治の世界ですから、知事や他会派と時には対立したり、妥協もあります。賛否の判断に迷うこともあります。しかし、最後は「本当に県民のためになるかどうか」を基準に、わが党は判断してきました。また、船にはしけに遭っても復元力が働く重し—バラスト—が備えられています。公明党はこのバラストのような存在になっていきたいと考えています。

#### ◆無所属県民会議 鈴木正人 代表◆

南第17区志木市選出

平成17年 埼玉県議会議員初当選(現在4期目)

平成27年 会派発足、無所属県民会議の代表に就任

—はじめに、ごあいさつをお願いします。—

代表 皆さん、こんにちは。無所属県民会議の鈴木正人です。

私ども「無所属県民会議」は、われわれの住む地域やわが国の歴史、伝統文化を大切にしながらも、本県の持続的発展のために既得権にとらわれず、変えるべきものはしっかりと変えていこうと考える、県民本位で県政の発展を目指す保守系無所属の会派であります。

どうぞよろしくお願いいたします。



—会派として、どのようなことに力を入れて取り組んでいきたいとお考えですか。—

代表 このたびの大阪府北部地震、西日本豪雨災害によって被災された皆さまにお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。

今回は、西日本を中心に甚大な被害が出てしまいました。自然災害を明日はわが身と受け止め、わが会派としても、被災地を支援するとともに、県としても早急に災害対策を見直す必要があると考えております。

—大阪府北部地震では、危険なブロック塀が大きな問題となりましたね。—

代表 小学校のブロック塀が崩れて児童が亡くなられたことを受け、県の教育局が1,397校の公立学校におけるブロック塀などを緊急調査した結果、約4分の1に当たる351校で建築基準法に適合しない疑いがあることが判明しました。

そこで、6月定例会中に会派として「学校のブロック塀などの安全対策を早急に進めることを求める要望書」を上田知事に提出いたしました。

—具体的にはどのような内容でしょうか。—

代表 各市町村が小中学校のブロック塀等の安全対策を早急に進められるように県が財政的支援を含め協力して行うこと、国へ財政支援と協力を求めること、さらに全国知事会においても小中学校をはじめ公共施設のブロック塀等の安全対策の推進を検討すること、などを要望いたしました。

その後、早速、全国知事会長として内閣府を訪れ、ブロック塀などの撤去・改修への財政支援などを担当副大臣に緊急要望していただきました。

また、西日本豪雨災害についても、全国知事会として国や市町村と連携して被災地を支援していく考えを示していただきました。

これからも上田知事に対して、被害状況をしっかり把握し、現地に負担をかけない形で復旧・復興支援を積極的に行うよう引き続き要望していきたいと考えております。

このたびの災害を教訓に、いつ本県で起こってもおかしくない自然災害への対策を着実に進めなければ県民の生命や財産を守ることはできません。

—安心して生活するためには早めの対策が重要ですね。—

代表 さらには、北朝鮮の弾道ミサイルなど、武力攻撃への対策についても、県の国民保護計画策定の基準となる国の基本指針に地下施設を活用するとの文言が新たに加えられましたが、ただ単に地下施設に避難しても、化学兵器による毒ガスや核兵器の放射能には対応できません。



真に県民の命を守る計画とするならば、地下施設は有事の際にシェルターとしての役割も担えるよう、民間にも協力を呼びかけながらどのような整備ができるのか、具体的に対策を練るべきであろうと常任委員会でも指摘しております。

ちなみに、永世中立国のスイスでは核シェルター普及率は100%。わが日本は0.7%で、弾道ミサイルによる化学兵器や核兵器への対策が国も自治体もまったく不十分であると考えております。

—そうした対策のためにはどのようなことが必要でしょうか。—

代表 どうしても積極的な財政出動が必要になりますが、地方自治体の努力だけでは限りがありますので、国の積極的な財政支援が必要です。

国は財政健全化の指標である、国と地方の基礎的財政収支、いわゆるプライマリーバランス・Xの黒字化を5年先延ばしいたしましたが、いまだに目標として掲げております。

わが会派は目標の撤回を求める意見書案も提出しましたが、他会派にご理解いただけず、残念ながら廃案となってしまいました。

直ちに黒字化目標を撤回して、積極財政に転じて西日本の復興とともに国民の生命・財産を守るためのインフラ整備を前倒しで行うべきだと考えております。

普段は質素・儉約も大切ではありますが、それによって命が失われてしまっては取り返しがつきません。防災・減災対策や国民保護計画の見直しについては、最悪の状況にもしっかりと対応できるよう国や県に求めていきたいと考えております。

—最後に、今後の抱負をお聞かせください。—

代表 このほかにも、昨年の政務活動費不正受給問題の発覚から前に進まない議会改革や、外環道の延伸などによってチャンスが広がった内陸県ダントツ1位、まさに「陸王」である埼玉県経済のさらなる活性化、子どもたちが地域への誇りと自信を持つための教育再生など、県民目線でしっかりと政策提言を続けてまいります。

[▲トップへ](#)



## 議事堂の花

このコーナーでは、議事堂の玄関ホールに飾られた生け花をご紹介します。

### 【協力 埼玉県いけばな連合会】



展示期間：  
8月6日  
～8月10日  
作者：  
関東未生流  
星加宣甫様  
花材：  
向日葵(ヒマワ  
リ)、棕櫚(シュ  
ロ)



展示期間：  
8月13日  
～8月17日  
作者：  
古流華栄会  
橋本理洋様  
花材：  
朝鮮槿(チョウ  
センマキ)

### ◇◆生け花の作者の方にお聞きしました！◆◇

#### 【Part1】



〈関東未生流 星加宣甫様〉

Q: 作品のテーマを教えてください。

A: テーマは「笑顔と元気が出る花に」です。

真夏に突入し、連日暑い日が続いているので、花を見ていただいて皆さまに少しでも元気を出していただけますように、という願いを込めました。

Q: 大輪の向日葵を見ると夏らしさや明るさを感じます。大きく葉を広げる棕櫚も存在感のある作品になっていますね。

A: 黄色の太陽のような向日葵はもちろんのこと、上へ上へと伸びていく棕櫚からも夏のイメージや力強さを感じ取ることができるでしょう。

## 【Part2】



〈古流華栄会 橋本理洋様〉

Q: 作品のテーマを教えてください。

A: お盆なので、朝鮮槿の緑色を生かして落ち着いた印象を感じられる涼しげな作品を生けました。

朝鮮槿のような枝物は葉に霧吹きで水をかけると、みずみずしくなるだけでなく、水滴が光って見え、美しく映えるようになります。

Q: 竹でできた特徴的な花器ですね。

A: はい。根元の曲線など、竹の自然な形を生かしている花器です。また、竹の節もはっきりと見ることができ、花器からも生き生きとした印象を受けます。

また、上の口からは枝をおろし、下の口から上へ昇るように生け方を対比させています。

[☆現在展示中の作品や過去の展示作品は、県議会のホームページでご覧になれます。》](#)

[▲トップへ](#)

## 【注意】

●メールマガジンにおいて氏名の一部にJIS規格第1・第2水準にない文字がある場合、第1・第2水準の漢字で表記しています。

## 【お問い合わせ】

●[「メールマガジン埼玉県議会」の登録・解除はこちらから》](#)

※登録事項(メールアドレスなど)を変更する場合には、お手数ですが、変更前のメールアドレスを一度解除してから新規に登録してください。

●「メールマガジン埼玉県議会」についてのお問い合わせ・感想はこちらまで！

E-mail [a6250-03@pref.saitama.lg.jp](mailto:a6250-03@pref.saitama.lg.jp)

埼玉県議会事務局政策調査課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1 電話 048-830-6257 / FAX 048-830-4923

